

二〇二三年度

入学試験問題

(二月四日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙七ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

【一】 次の【I】【II】の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

【I】

昔、修身^{※注1}の教科書にこんな話があった。ある子どもが、「狼^{おおかみ}が出た!」とうそをつく。村人は子どもを助けようとび出してくるが、うそだとわかって怒^{おこ}って引きあげる。それが面白^{おも}いので、子どもは何度もうそをついて、大人の混乱を楽しんでいる。ところが、ある日、本当に狼が出てきた。子どもは「狼が出た!」と叫^{さけ}ぶが、「村人は誰^{だれ}も助けに来ませんでした」というのである。

せっかく修身で習ったことは応用するべきであろう。そこで、ある子どもが「百万円が落ちている!」と叫ぶ。大人たちは分け前にあずかろうととび出してくるが、うそとわかってがっかりする。その子はそれをたびたび繰り返して大人たちを惑^{まど}わして楽しんでいた。ところがある日、百万円が本当に落ちていた。子どもは「百万円が落ちている」と叫ぶが、「村人は誰も拾いには来ませんでした」ということになる。

こんなことを言うと、「冗談^{じやうたん}も休み休み言え」と叱^{しか}られそうなので、もう少し「マジメ」なことを―それも休み休み―述べてみたい。ともかく、「うそから出たまこと」という表現もあるように、「うそ」はあんがい「まこと」を引き出してくる力をもっているようである。「百万円」のようなことは、それほど簡単に事が運ばないかも知れないが、「今年こそ本を一冊書くぞ」などと、うそを言い続けている

ると、本気にする人も出てきて、申訳ないと思つて何とか努力しているうちに、本当のことになってしまふ、ということはあんがい多いのである。

「うそ」になつては申訳ない、というので随分^{ずいぶん}と慎重^{しんじゆう}にもの言う人がある。本当のところは、やれそうに思つていても、うっかり言つてしまつてうそになつてはいけないと思ひ、やれるかどうかわかりませんなどと言つていられるうち、本当にそのとおり、なかなかやれなくなつてしまふことになる。結局は①うそでも何でも、やれると言つていた方がよかつたのではなからうか、と思えるのである。

しかし、まことが出てくるまでうそをつくのは、それほど簡単ではない。修身の教科書を見てもわかるように、一回うそをついただけでは駄目^{だめ}で、本当になるまでには、大分繰り返しうそをつかねばならないらしい。これも面白いことではあるが、時には、うそつきだと怒られることもあるうし、もう信用しないぞ、などと言う人もあるう。それに耐^たえてうそをつき通すためには、大分忍耐^{じんたい}や勇氣などを必要とすることであろう。それだけの②したたかさがあつて、はじめてうそからまことが生まれるのかも知れない。なかなか、うそをつき通すのも大変なことだ。

本当のことでも言葉にして言つてしまふと成就^{じゆうじゆ}しないのでは、というような怖^{こわ}さがあつて、なかなかそのまま言えぬときがある。たとえば、プロ野球などでも優勝というようなき、うっかり「優勝」と言つてしまふと、何だか逃^にげてゆきそうに思えたり、気が持

ゆるみそうな気がしたり、そこで、監督は「まだまだ優勝など考えもしない」と言うのだが、その実、心の中では優勝のことをずっと考えているというわけである。こんなときは、腹のなかでは、優勝するぞ、とか、優勝してみせるぞとか思いながら、「優勝のことなど念頭にない」というようなうそをつくわけだから、少し手がこんでいる。

このようなときは、現実が相当目の前にちらついているわけで、^③うそから出たまこと、という次元での「うそ」の話とは異なるものと考えた方がよさそうである。ただ、本当のことを腹で思いながら、うそを言い続けるところに、うそと真実との関連性を考える上で興味を感じさせられる。

うそから出たまことが活用できる、もうひとつの場合は、他人をほめることだろう。たとえ、うそとわかっている、誰か他人に対して、あなたは熱心な人だ、とか、あなたの誠実さには感心した、などと言いつづけていると、だんだん、それは「まこと」になっていくことが多い。うそと思う人はやってみるといい。もつとも、この「うそを言い続ける」ということは、先にあげた例の場合と同様に、実に難しいことである。「あなたは熱心な人だ」と、二、三回は言うとしても、その人が怠けて（なま）いるのを見た後でも、なお言い続けるのは大変である。^④それをしたからといって、別に自分は何も損しないのだからやってもよさそうなものだが、なかなか出来ない。

うそからまことが出てくるのは、本当のことだとしても、ただ、人間というものは、うそを繰り返す言うのが、あんがい苦手なのだ

ろう。そこで、他人をほめるにしろ、自分のやりたいことを言うにしろ、その「うそ」のなかに、何らかの^⑤がこもっていることが必要で、それをどうやって見つけ出してゆくかがポイントなのであろう。

【Ⅱ】

人間関係を維持することは、あんがい難しいことである。日常の何気ない接触のときでも、われわれはそのために気を遣っている。

^⑥、ほとんど無意識に言ったり、したりしていることでも、考え直してみると、なかなかうまくやっているものである。

(中略)

適当なうそを上手に混ぜて、人間関係を円滑にしている。しかし、そのような常備薬としての「うそ」も、いつもいつも用いていると、中毒症状がでてくる。だんだんとそれは見えすいたお世辞になってしまい、それがしかもほとんど自動的に出てくるので、他の人々が、その人の言葉を信用しなくなってくる。あるいは、その人個人の感情というものがどうなっているのかわからなくなってきた、その人は精一杯お世辞をふりまいているつもりなのに、周囲の人は不愉快になってくるのである。中毒症状に陥らぬためには、われわれはここぞというときに、真実を言う練習をしておかねばならない。しかし、真実は劇薬なので使い方を間違えると大変なことが起こることを、われわれはよく知っておかねばならない。他人を非難したり攻撃したりするとき、うそが混じっている間はまだ安全である。その人の

真実の欠点を指摘するとき、それは致命傷になる。言っではならぬ真実を口にしたために、人間関係が壊れてしまった経験をお持ちの方は、多く居られることと思う。

このことを知らず、ともかく真実を言うのはいいことだと単純に確信している人が居る。このような人は劇薬や爆弾をあちこちにバラまく「確信犯」みたいな人である。このような人にはあまり近寄らない方が賢明のようである。

常備薬の使いすぎにもならず、さりとて劇薬を使いすぎず、ということになる、毒にも薬にもならない、無難な会話ということになる。欧米人とつき合っていると、ともかく彼らは「うそ」を非常に嫌うので、^⑦うそでも真実でもない表現をするのが上手なことに気づく。たとえば、誰かが皆の前で歌を歌う、あまり声もよくないし、音程も少しはずれているとする。そんなときには「下手な歌でしたね」というのは真実すぎる。さりとて、上手だというのも見えずいたうそになる。そこでもし彼が心をこめて歌ったと感じるとき、「こころがこもっていましたね」というのは、うそではない。

うそではないが、特にそのことを選んで言うところに一種のうそが潜んでいるのだが、そんな点で、これはうそでも真実でもないところと言えらるう。薬というものは、できるだけ使用しない方が用いたときには効果的だから、日本人は、欧米人を見習って、このような、うそでもほんとうでもない表現方法をもう少し身につけてはどうかと思われる。

(河合隼雄「こころの処方箋」)

※注1 修身：道徳。戦前の小・中学校などで学んでいた教科の一つ。

問一 — 線部①「うそでも何でも、やれると言っていた方がよかつたのではなからうか」とありますが、筆者がそう考える理由を四十字以内で説明しなさい。

問二 — 線部②「したたかさ」とありますが、「かさ」としたときに、にあてはまる漢字の表記としてふさわしいものを、本文の内容を手がかりにして、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 悪 イ 弱 ウ 強 エ 良

問三

——線部③「うそから出たまこと、という次元での「うそ」の話とは異なる」とありますが、この考えを説明した内容としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア うそを言い続けることに変わりはないが、本当のことを思いながらうそをつくことで、それが必ず実現するとう点が異なる。

イ うそを言い続けることに変わりはないが、うそが現実になるかもしれないと分かっているという点が異なる。

ウ うそを言い続けることに変わりはないが、うそと真実との関連性に、自分が興味を持てるかどうかという点が異なる。

エ うそを言い続けることに変わりはないが、言い続ける忍耐や勇気を持つことが出来るようになるという点が異なる。

問四

——線部④「それ」が指す内容を二十字以内で説明しなさい。

問五

本文中の⑤にあてはまる語としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 攻撃性

イ 面白さ

ウ 思いやり

エ 真実味

問六

本文中の⑥に入る語としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは

イ ところで

ウ たとえば

エ まるで

問七

——線部⑦「うそでも真実でもない表現」とありますが、次のア～エのうち、この表現が成立していないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分はまだ観ていない映画の話をしている友達の輪に入り「あれすごく面白かったよね」と声をかける。

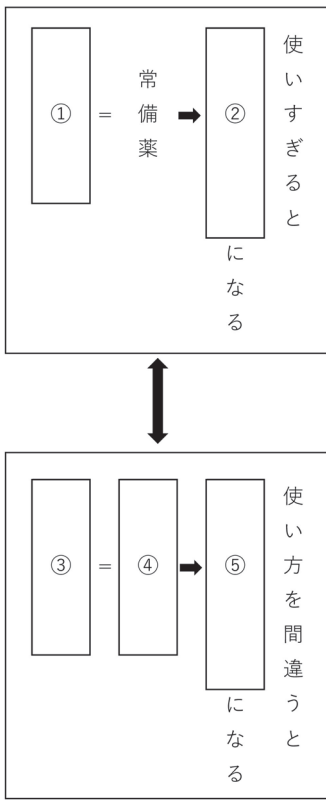
イ 練習熱心だが走るのが速くならない友達に「努力を続ければ結果が出るよ」と声をかける。

ウ あまり上手ではないカラフルな絵の作者に「個性的な色使いですね」と声をかける。

エ 自分にとっては味が濃すぎる料理を作った料理人に「忘れられない味付けです」と声をかける。

問八

本文中の〔 〕の内容を説明した次の図の①から⑤に、それぞれふさわしい言葉を本文中から抜き出して答え、正しく完成させなさい。



問九

あなたはこれまでどんな「うそから出たまこと」を経験しましたか。二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

ダツタンソカノウゴキハチキユウカンキヨウヲマモ
ルトイウツヨイイシノモトゲンザイデハセカイキヨ
ウツウノモクヒョウトナツテイル。カテイデノニ
サンカタンソノハイシユツリヨウヲヘラストメカン
キヨウシヨウハアタラシイセイカツヨウシキヲテイ
アンシタ。ジユウタクノダンネツカデネンニヤクセ
ンヒヤクキログラムヘラセルトイウ。クニモテアツ
クシエンシテイクカンガエダ。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 雑誌の巻頭に特集が組まれる。
- (2) 初対面の相手には無愛想にするべきではない。
- (3) 現実は正に予言通りになった。
- (4) 糸切り歯とも言われる犬歯。
- (5) 旅情をそそる風景。
- (6) 友人のために内容をカイゼンする。
- (7) 有名な神社をハイカンする。
- (8) こまっている人をキユウサイしたい。
- (9) セイセキをのばすために努力を続ける。
- (10) 運命に身をユダねる。

